
第4回 米代川水系河川整備学識者懇談会 議事録（概要）

日時：平成21年11月27日 14:00～16:30

場所：能代キャッスルホテル平安閣

1 懇談会資料

- ① 第4回米代川水系河川整備学識者懇談会 次第 規約 委員名簿
- ② 資料-1「パブリックコメント実施結果について」
- ③ 資料-2「米代川水系河川整備計画（国管理区間）（原案）」
- ④ 資料-3「米代川水系河川整備計画（原案）対比表」
- ⑤ 資料-4「米代川直轄河川改修事業事業評価」
- ⑤ 資料-5「米代川直轄河川改修事業（国管理区間）」
- ⑥ 資料-6「米代川水系河川整備計画（案）」
- ⑦ 「米代川のこれからの川づくりについてご意見をお聞かせ下さい」

2 会議の内容

2.1 資料-1「パブリックコメント実施結果について」

【全体について】

<堺座長>

自由意見あるいは選択の中で重要と思われたものが、素案の中に入っていたかどうかチェックをして、住民からの意見がすでに原案の中に入っているという説明であった。

事務局の提案は水質改善であり、素案では、「水質状況を把握します」で終わりだったが、「観測結果の情報提供、共有化を図っていきます。さらに必要があれば、関係機関と連携して水質改善の検討を行う。」と少し積極的になったということだと思う。

素案は水質を見ますと言っているだけだったが、情動的共有すると同時に万が一必要があれば水質改善の検討を行うという積極的な姿勢も入れ込みたいというのが一つ、さらに②では、一方的に啓発するということではなく、住民と行政と一緒に取り組むという気持ちを含めて取り組みという表現に変更したいという提案である。この点はよいか。<了承>

【環境保全対策について】

<小笠原委員>

アンケートの回答者が、環境保全対策の具体的内容を十分理解した上で答えているかどうか疑問である。また、生態系に配慮したという文言があるが、一般の人たちがこの生態系というものを理解した上で回答しているとは思えない。

<平山調査第一課長>

一般の方々に対しては、アンケートに用いたパンフレットに整備計画素案の内容を簡潔に、分かり易くまとめた。同時にアンケートを配布箇所には素案も一緒に閲覧できるようにしてあり、内容を確認しながら回答できる状況にしてあった。

<小笠原委員>

一般の人には、素案で示しても、口で説明しても、環境保全対策の中身はなかなか分かりにくい。それでアンケートをとって、こういう結果になりましたというのは疑問である。生態系という言葉は、非常に幅広く難しく、色々な生き物たちが絡み合い、また土壌や河川と共に一体化したものが生態系である。それを一般の人たちが理解した上でアンケートに答えているのか不安である。

<堺座長>

事務局としては、表紙から全部中身を読んで回答頂いたということでとりまとめられていると思う。例えば環境のところは、必ずしも分かり易いとは言えないが、少しは丁寧に書かれているという感じはする。最後のところに、継続的な環境の監視と生態系に配慮した事業の実施というところの可能な限り動植物の生息・生育環境に配慮した多自然川づくりを推進しますというので、分かって頂けたかどうかです。

<小笠原委員>

これでは分からない。生態系が非常に短絡的で学問を反映した上での生態系となっていない。国交省自体ももう少し勉強して一般の人たちが分かり易いようなかみ砕いた説明でアンケートを取るべきだったということを言いたいだけである。

<平山調査第一課長>

自由記述意見に「パンフレットが分かりづらく、またアンケートを集計した結果がどのように活用されるのか疑問に思いました」という意見もあり、これらを考慮して今後対応したいと考えている。

<小笠原委員>

一番気になるのは、「今の環境保全対策で満足」がわずか 3 人しかいないという点である。環境保全対策の内容を理解していればもっと多いはずである。

<平山調査第一課長>

事務所でも環境対策について勉強会等開いているが、これから周知していくことに努力したい。

【計画の前提について】

<小畑委員>

計画に対して色々な意見が出てくるが、計画の中で相矛盾する要素も入れながら整理するように努めているという表現があればよいと思う。治水と環境の他、色々な要素があり、それらを上手くまとめていきたいという姿勢が出せれば良いと思う。色々な意見が出ているが、それらを解決するためにこの計画があるということを言えれば良い。洪水はなんとしても防ぐ、しかし自然環境も保全しろと、それを両立させるのがこの計画であるということが、明示されていれば良いと思う。

<堺座長>

最初の方に計画の主旨、位置付けなどあるが、この部分にいろいろな要素がある。その中に、全て住民の意見を聴きながら、また我々の中での多少相反することも考慮に入れて、整備計画を考えた、という一言があれば良いと思ったが、そういう書き出しの部分がない。この部分に書ければ良いと思う。これは国交省の方で作られている他河川でも同じなのか。

どこか分からないが書き出しのところで、そのような表現が入れられるのであれば、ただ一方的に考えたのではなく、相矛盾するものや競合できないようなものも含めて考えた結果がこれですという書き方もあるのではないか。

具体的にはいろいろ出てくるが、書き出しのところで、総合的に判断して作られたというのが必要だという意見だと思う。そういった我々の気持ちを入れ込めるよう少し文言を変えるよう事務局の方にお任せする。

<田上河川部量>

今の意見については、1 ページのさらに前段か計画の主旨の始めに事務局で考えてその主旨を書き込みたいと思う。

【中州・土砂撤去について】

<齋藤委員>

パブリックコメントで「中州をなくする」や「土砂の撤去」と言う意見が多く、中州や土砂を撤去し河川能力を上げて欲しいという住民からの要望だと思う。原案では「堆積土砂の撤去」に対する表現がたった1行しか出てきていない。意見の少ない河道掘削や樹木管理は図を入れ、分かり易く丁寧に書いているのだから、地域住民の要望の多い中州や土砂の撤去についても図を入れるなど分かり易く書いた方が親切だと思う。

<平山調査第一課長>

分かり易い表現を考えていきたいと思います。

【文言修正】

<齋藤委員>

原案の68 ページの文章で、冒頭に「河川環境に与える影響が大きいと予想される場合は・・・」とあって、また、「河川環境に影響を与える場合には・・・」と2つ入っている。後段は入らない。

<平山調査第一課長>

68 ページについては、修正を考えたい。

【水質について】

<羽田委員>

地域の住民は必ずしも米代川の本川の見ているわけではなく、身の回りの小さな川を見ているかと思う。国交省管轄だけではなく市町村や下水道の整備状況等に関連している部分であると思う。最終的な修正文として必要に応じて関係機関と連携を図り水質改善の検討を行いますと入っているので、例えばこのような委員会として確認した首長さんのご理解を頂き、一緒に努めていく観点が大事だと思う。

【まとめ】

<堺座長>

パブリックコメントの内容を踏まえたものとしての、この原案について二つだけペンディングがある。一つは小畑委員からの提案により、相反するものを極力両立させるのがこの計画であり、その内容を含めた検討であったということを入れたいということ、もう一つは、齋藤委員からの提案により、中州や堆積土砂撤去と言った関心の高いものについて、もう少し分かり易い表現で入れて欲しいということである。この2点は修正を待ちますが、それが本会の考えているものになったことを前提にこ

の原案について承認をお願いします。〈了承〉

2.2 資料-3「米代川水系河川整備計画（原案）対比表」

【記載内容の修正】

〈小笠原委員〉

「クマゲラが白神山地や阿仁川上流域部及び森吉山周辺・・・」と書いてあるが、阿仁川上流部でいつ確認されたのか。「阿仁川上流」を取り、一番最初に本州でクマゲラが発見されたのが森吉山なので、「森吉山並びに白神山地・・・」という文言に修正できないか。阿仁川の上流部でも確認されたという記録があれば、それを見て判断したいと思う。生息していることは確かだが、確認されていない。

「河口部に広がる海岸砂丘やその後背地の池沼・湿地などには、ガン・ヒシクイ等の渡り鳥の国内屈指の中継基地となっているなど、・・・」とあるが、池沼は小友沼のことを指していると思う。県の農政の方で堤を改修し、基本的には影響はないようにすると明言していたが、今日、行って来たが、水がなくガンが降りられる状態ではなく、全くいない。また、湿地とあるがどの湿地のことを指しているのか。本川周辺でガンやヒシクイが利用、生息できる湿地はどこか、周辺の田圃ではないか。

〈平山調査第一課長〉

今日は資料等、用意していないので、即答できない。こちらの記載につきましては平成 17 年の現計画本文のままとなっているので、再確認する。

〈石川委員〉

地形と地質(p5)について、「流域内の地質は、全域にわたって概ね第四紀の火山岩・・・」とあるが、これ全く間違いである。火山岩は、十和田湖と森吉山だけであり、あとは第三紀の石なので訂正をお願いします。言葉として、「全域にわたって新第三紀中新世の火山岩類及び堆積岩からなり、十和田湖及び森吉山付近には第四紀の安山岩が分布します。」と訂正願います。

【まとめ】

〈堺座長〉

細かなことは時間もかかるので、委員会の中での委員の方に再度見て頂いてもらう。もしこの懇談会の中に適任者がいなければ、役所の方でどなたか依頼して、きっちりとした資料にして頂きたい。今、二人の先生からの意見を中心に進める、ということをお願いしたい。

パブリックコメントの結果を踏まえたのがこの原案である。その他にパブリックコメントとは関係なく、最新のデータに入れ替えたところを示したのが、A3判のものである。いくつかのこれからの作業はあるが、そういったものを含めて、本来、もう一度集まって正式なものを見て議論すべきだと思うが、いまのような修正を加えることを前提に、この懇談会としては承認するか、あるいは再度審議する必要があるかということだと思う。そこは事務局と専門の先生にお任せするということで、この懇談会としては原案を認めるということによいか。〈了承〉

2.3 資料-4「米代川直轄河川改修事業事業評価」

吉永所長から『米代川直轄河川改修事業事業評価』の説明を行い、以下の質疑応答が行われた。

<堺座長>

全ての支出に対して全てのベネフィットと考えると 2.66 なので十分効果がある。さらに、今後の支払いに対して、ケース 2 のようにこれからかけるお金に対して 10 倍以上の効果があるとなる。どちらで見ても十分投資効果があると私には見えるが、皆さんはどうでしょうか。参考の例も考え方を換えれば 2.58 や 8.89 となる。いろいろな見方ということですが、事務局としてベースは最初の方でよろしいですね。これからかかる費用が今まに行われている事業仕分けの部分だと思うが、その観点でも十分効果あり、ここまで進捗している森吉山ダムを止めることはないので、トータルで見ても必要なものであると考えるかです。少しお金がかかるので少し考えた方がいいのではないかと、言う考えもないわけではない。B/C については、おおよそ妥当であるという判断でよいですか。<了承>

その他の取り組みですが、事務局の提案でよろしいでしょうか。<了承>

この委員会で事業評価として継続が妥当であるということなので、意見書をこの場で確認し、提出したいと思う。

<堺座長>

東北地方整備局長宛にこの懇談会を代表して私から再評価についての意見として、別紙のとおり提出します。「①米代川直轄河川改修事業について、事業の継続は妥当と判断する。その他、特になし。」ということで、意見書として出したいと思う。よろしいでしょうか。<了承>

2.4 資料-6「米代川水系河川整備計画（案）」

<堺座長>

石川先生、小笠原先生、井上先生をはじめ、他の委員にも見て頂くが、しっかりしたものに変えたいと思うのでよろしく願います。2 点の宿題についてもなるべく早く対応願いたい。

4 回やられて、次に備えて考えておくべき宿題があれば是非願います。一つは「分かり易い表現で提案する」ということを心がけて頂ければと思う。パブリックコメントで意見を聴くならしっかり説明した上でという意見はもっともなので、米代川では当分パブコメはないと思うが、他の河川でも参考にしてもらいたいと思う。

【掘削土について】

<石川委員>

河道の掘削した土が環境に対して汚染を起こさないという補償が必要だということを前に言った記憶ある。今回、河道掘削土で築堤や堤防強化、一部は大館鷹巣間の道路の盛土に使っているということであり、この土が環境汚染、水質汚濁を起こさないということを公表する必要があると思う。安全な土であることを数字で知らせなければ、場合によっては理解できない、その点を是非加えて欲しい。

<武田副所長>

河道掘削は、基本的には高水敷部分を平水位くらいまで下げるということで、調査をしながら実施

する。

【事業効果における内水の扱い】

< 齋藤委員 >

議題とは関係なく勉強させて欲しいのだが、便益は米代川だけではなく、内水・支川まで入っているのか。

< 吉永所長 >

今回の便益は本川だけである。

< 齋藤委員 >

本川の水位が上がらなければ水門を閉める必要がないので、内水が溢れることはない。我々からすると、米代川が良くなれば内水の被害が減り、便益もかなりある。今回、内水が入っていないのであれば、B/C は実際の被害からみると更に高くなると思う。そのような認識をもち、内水軽減の効果もかなり大きいことを説明した方が更に理解して頂くという気がする。議題とは関係ない意見です。

< 堺座長 >

広報という意味では大切である。

< 田上河川部長 >

勉強会という話なのでお答えする。今回は全て外水評価、つまり本川である。内水の発生頻度は大きいですが、氾濫規模は外水、米代川が切れたときの方が非常に大きく、内水はその内数という形になる。

< 齋藤委員 >

我々からすると効果があると言える。

< 田上河川部長 >

回数的にはおっしゃるとおりである。

第4回 米代川水系河川整備学識者懇談会 出席者一覧

※敬称略

◇米代川水系河川整備学識者懇談会 委員

職	氏名	備考
秋田大学 名誉教授	石川 洋平	
秋田大学 教育文化学部 自然環境講座 教授	井上 正鉄	
秋田大学 名誉教授	小笠原 暁	
大館市長	小畑 元	
北秋田市長	津谷 永光	
能代市長	斎藤 滋宣	
岩手大学 工学部 学部長 社会環境工学科 教授	堺 茂樹	
秋田工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授	佐藤 悟	
秋田県立大学 生物資源科学部 アグリビジネス学科 教授	佐藤 照男	
秋田淡水魚研究会 代表	杉山 秀樹	欠席
秋田工業高等専門学校 名誉教授	羽田 守夫	

◇国土交通省 東北地方整備局

職	氏名	備考
河川部長	田上 澄雄	
能代河川国道事務所 所長	吉永 宙司	
能代河川国道事務所 副所長	武田 節朗	
能代河川国道事務所 調査第一課長	平山 孝信	